

科目名	看護科学特論VI Advanced Topics in Nursing Science VI
授業形態	講義(レクチャーと討論)
標準履修年次	1・2年次
実施学期・曜時限等	春AB学期 応談
実施場所	別途指示
単位数	2単位
担当教員名	水野道代 Mizuno Michiyo 牟田理恵子 Muta Rieko
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	随時(メールで予定を確認の上訪問すること)
授業の到達目標 (学習成果)	① 包括的ニーズアセスメントの方法を習得し、研究課題で扱う対象の臨床問題をエビデンスと理論に基づいて明らかにすることができる。 ② 臨床問題に対応した看護援助を立案する技法を習得し、その効果を評価する知識や研究手法を習得することができる。
他の授業科目との関連	
履修条件	看護科学特論VIを学びたいと考える者
授業概要	対象の健康問題を的確にアセスメントし、包括的視点に立って立案した看護援助の効果を科学的に評価するために必要な知識や研究技法について、看護科学の発展といった視点を踏まえて教授する。
キーワード	ニーズアセスメント Needs assessment、EBN Evidence based Nursing、理論モデル Theoretical Model
授業計画	1 オリエンテーション 2 包括的ニーズアセスメントの方法Ⅰ 3 包括的ニーズアセスメントの方法Ⅱ 4 包括的ニーズアセスメントの方法Ⅲ 5 包括的ニーズアセスメント結果の使用法Ⅰ 6 包括的ニーズアセスメント結果の使用法Ⅱ 7 包括的ニーズアセスメント結果の使用法Ⅲ 8 健康問題・臨床問題のエビデンスと理論に基づいた説明-理論の応用Ⅰ 9 健康問題・臨床問題のエビデンスと理論に基づいた説明-理論の応用Ⅱ 10 健康問題・臨床問題のエビデンスと理論に基づいた説明-理論の応用Ⅲ 11 健康問題・臨床問題のエビデンスと理論に基づいた説明-エビデンスの活用Ⅰ 12 健康問題・臨床問題のエビデンスと理論に基づいた説明-エビデンスの活用Ⅱ 13 健康問題・臨床問題のエビデンスと理論に基づいた説明-エビデンスの活用Ⅲ 14 援助計画の組み立て方Ⅰ 15 援助計画の組み立て方Ⅱ 16 援助計画の組み立て方Ⅲ 17 援助計画の科学的評価法Ⅰ 18 援助計画の科学的評価法Ⅱ 19 援助計画の科学的評価法Ⅲ 20 総括
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義(%) 目的を持って学ぶこと
成績評価方法	行動目標1,2を指導に従って大旨できていればC以上、目標達成に向け積極的に行っていると判断されればB以上、また、発表や討論状況、作成した資料を元に理解度を評価し、優れていると判断されればA以上と判定する。
教材・参考文献・配布資料等	(教科書)特に指定しない。 (参考書)授業の中で適宜紹介する。
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	具体的授業の展開方法は第1回のガイダンスで資料に基づいて説明します。